

# みなみ

R8 竜王南小学校便り

No. 1

2026.4.17 発行

甲斐市立竜王南小学校

学校教育目標

「楽しい学校（楽校）の創造」

— やる気 こん気 げん気 —



## 桜咲く中 児童305名のスタート！

桜の花が咲き、校庭の芝生も日に日に青さを増す中、4月7日に入学式を、4月8日に始業式を行いました。新たに55名の1年生を迎え、令和8年度は全校児童305名でのスタートとなりました。2週間あまりが過ぎた現在、子どもたちは毎日の学校生活を生き生きと過ごしています。

さて、昨年度末の人事異動で、13名の教職員が竜王南小学校に赴任しました。新たな気持ちで、総勢50名の教職員が竜王南小学校の教育の充実のために一丸となって頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

### ピッカピカの1年生！ ～入学式～

4月7日（火）、新入生55名を迎え入学式が行われました。

ご家族の皆様、お子さんのご入学おめでとうございました。新入生は、緊張しながらも担任からの呼名にしっかりと返事ができ、たいへん立派でした。そして、私の式辞の時も、しっかりと話を聞いてくれとても嬉しかったです。

また、6年生が児童代表として式に参加し、綺麗な歌声で歌のプレゼントをしたり、学校の様子を呼びかけで伝えたり、工夫をして新入生を迎えてくれました。6年生が式に臨む姿勢は背筋が伸び、「やる気」を感じました。入学式前日に何回も練習する6年生に「こん気」を、式の中ではっきりと「ハイ」と返事をする6年生からは「げん気」を感じました。私は、とても感動しました。入学式後、6年生は、朝、1年生のお手伝いに行ってくれていました。この6年生ならば、竜王南小学校を任せられると思いました。

新入生には、早く学校に慣れて、そうした最上級生がいる竜王南小学校を大好きになってほしいです。



頼もしい6年生でした！



### 笑顔がたくさん！ ～始業式・新任式～

令和8年度がいよいよ始まりました。年度末・年度始めの間、子どもたちの声が聞こえず寂しかった校舎も子どもたちの笑顔が戻り、賑やかになりました。

どんな先生がいるのか  
子どもたちは興味津々でした。

新しい人との出会いを通して、人は大きく成長をしていきます。子どもたちも様々な人との出会いの中から、多くのことを学んでいきます。少しの緊張感と新たなスタートへ向けての心構えを多くの子どもたちから感じました。新しいステージで多くの経験を積みながら成長していくことでしょう。

## 令和8年度 学校経営の基本的な考え

学校教育目標である「楽しい学校（楽校）の創造」の実現を目指し、4月当初に校長から学校経営の基本的な考えを提示し、職員と確認をしました。

具体的には「児童が生き生きと活動する学校」「安心安全で信頼される学校」「地域とともに歩む学校」の3本柱により一層魅力的な学校づくりを進めていきます。また、竜王南小学校は、令和6年度からコミュニティ・スクールとなっています。コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を設置した学校のことです。コミュニティ・スクールとなることで、地域の皆様に学校運営に参画していただき、地域とともに子どもたちを育てていくことを目指していくこととなります。保護者の皆様におかれましても、子どもたちの活動をますます充実させることができますよう、学校での教育活動に、引き続きご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 目指す児童像

- ・進んで学ぶ みなみの子ども…………… (知)
- ・おもいやりのある みなみの子ども…………… (徳)
- ・じょうぶで元気な みなみの子ども…………… (体)

## 手を取り合って ～共通対応が子どもを育てる～

小学校での確実な学習習得には、子どもたちが6年間安定した学級・家庭状況の中で学習に向き合うことが必要です。ルールやマナーが守られ、かつ温かな人間関係に支えられた安定した状態を維持し続けることが大切です。学校全体が良い状態で安定している学校は、「教師集団が持つ価値観と対応がそろっている」と言われています。これは、ある指導において、教師によって大切に思っている度合いが違ったり、教師によってまちまちな対応をしていたりという学校で、子どもたちへのルールが定着されにくいということが影響していると考えられます。

学校では、教師の価値観と対応をそろえる（共通認識と共通対応）努力をしています。教師の対応は、そろっているようでいて意外とそろっていないこともあります。子どもは、それを敏感に感じ取って、「あの先生は厳しいから、ちゃんとしよう。」とか「〇〇先生は、いいって言ったよ。」という反応を示します。指導の基準が曖昧であると、弱い指導のところにひずみが出てきてしまいます。また、子どもは「なぜ、いけないのか。」を考えるよりも、教師の顔色を見て行動するようになってしまいます。これでは、学校全体にルールやマナーは定着しません。教師の対応をできるだけそろえることで、全校の子どもたちの心に「こういう時は、こういう行動をとるのがよいのだ。」という、本校の一貫した判断基準、行動基準を育てることになるのです。「学校がもつ雰囲気とか伝統が児童を育てる。」というのは、実は共通の判断基準、行動基準を育てることなのです。学校内の児童が共通の行動様式を身に付けた結果として「竜王南小学校の児童は、あいさつができるね。」とか「竜王南小学校の児童は静かに話を聞くね。」という学校の雰囲気がつくられていきます。

このことは、家庭においても同じことが言えます。学校と家庭両者の価値観と対応がそろっていることで、子どもたちも穏やかな気持ちで毎日を過ごすことができます。例えば、保護者と担任と一緒に子どもへの接し方や支援の方法を考えることで、保護者との共通認識のもと支援を進めることができるようになります。保護者との協力関係が得られなければ、検討した支援が子どもたちの生活の充実や今後の成長に結びつかなくなる可能性もあります。万が一、学校と家庭のどちらかの思いや考えが先行し、それぞれの思いや願いを受け止めることができない状況になった場合、子どもたちの状況や対応方法について、お互いが情報交換するとともに、協力関係を築けない理由を考えてみる必要があります。

子どもたちの健やかな成長のために、学校側でも必要に応じて保護者の皆様と連絡を取らせていただくことがあります。逆に、保護者の皆様も、疑問や質問がございましたら、遠慮せずに学校に連絡をお願いします。

竜王南小学校らしく、学校・家庭、地域で手を取り合って、子どもたちの教育に携わっていきましょう。